

# えんがわ

第71号

2013年2月発行

発行元  
衣笠病院グループ  
横須賀市小矢部  
2-23-1  
Tel 046-852-1182

## 臭いの気づき

衣笠ホームでは、知的障がいのある青年が働いています。明るくひたむきに働く姿は、こちらにも励まされます。障がいゆえに仕事の組立てがわからなくなり、頻繁に質問してくることがあります。最初私は障がいを理解し、彼のペースに合わせていこうと平静を心がけましたが、何度も説明をするうちに、徐々に自分の言葉にとげが出てきていることに気づきハツとしました。「事務長、ひよつとしてさつき怒りました？」なんてストレートな言葉をもたらした時は、「あーしまった！」とあとの祭りです。なんとけなげで純粋な青年

かと愛おしく思うところですが。人間の力関係でこちらが優位な場合、相手が自分をいらだたせる時、無意識に相手をやり込めてしまふ。そんな人間のどうしようもなさを自分の中に見たときに、今のいじめ問題の渦中にある子供達であれば、なおさらありうると考えさせられました。私は、人間はもつとかくあるべきと力むよりは、人間のいたらなさを自覚し、たとえ、相手をつまづかせることがあっても、すぐに反省し、仲直りをし、共に許し合っているから生きていくしかないのではないかと、青年との交流で実感したことであります。

衣笠ホーム

事務長 森田兼行

## えんがわ在宅 ひとくちメモ

### ネパールにて

ネパールに行ってきました。当法人では昨年の十二月迄で計五回、医療協力として医師や看護師、その他の医療スタッフを派遣しており、その一員として行ってきました。空港に降り立つと国独特の臭気が鼻につき異国に來たんだな〜と思いました。道路に出れば「俺様こそ交通規則」と言わんばかりの乱暴な運転が目に見えび込んできますが、片や「そんな規則はわしや知らん」と牛は悠然と歩き、犬は熟睡をむさぼっており、私の異国感がさらに増していききました。信号はあるものの停電でまるで役に立っていない。そんな中で車は戦場の如く路上のあらゆる

ものを蹴散らしながら爆走。しかしピリピリした緊張感溢れる交通事情とは逆にネパール人にはとても穏やかな印象を受けます。「ナマステ」と挨拶すれば両手に荷物を持っていてもそれをおろして胸の前で合掌して「ナマステ」とほぼ一〇〇%返してくれる。日本での自分を振り返ってみた時、仕事中パソコンを打っていて手を止めず、口だけで挨拶している自分がいました。忙しく何かをしながら挨拶することに慣れてしまっていたのです。一旦作業している手を止めて相手の目を見て挨拶することを思い出しました。

法人事務局 経理課主任

石渡 大輔

バレンタインデー。二月十日、イタリアでは恋人同士が婚約を発表する日としてもピュラーになっっているようです。